

存続濱千鳥

四



特別
~13
4151
4



わんてりしきまらしり
お物演中多

祝儀と外おけのひまめ

情の海

四之巻目録

一 舟筒お底心縁の影八



永田文庫

舟筒お底心縁の影八
舟筒お底心縁の影八
舟筒お底心縁の影八
舟筒お底心縁の影八
舟筒お底心縁の影八

二 二人生玉縁久

二人生玉縁久
二人生玉縁久
二人生玉縁久
二人生玉縁久
二人生玉縁久

目録

るるる

三 生國石別溪田

生國石別溪田
今子ハ一月隠舞二月ぬれ打おのち懸く
隠りた定宿五引千人千人懸たのり

四 佛乃河利生

佛乃河利生
黒台より目念わ方りど候一のり
佛光よ今子れ包紙 年号月日れり
縁起ハ大津より百日回候の事



本邦漢中名表之中四

一 邦乃物産類のの中

邦乃物産類のの中
張借小童女の魚女れ仇とあり物産ハ女育との魚
と信て乃乃骨とハゆ世人の心と湯ホとハ
ふ玉のつらりと産るす婆とあり心乃の事ハは
とておんハあり

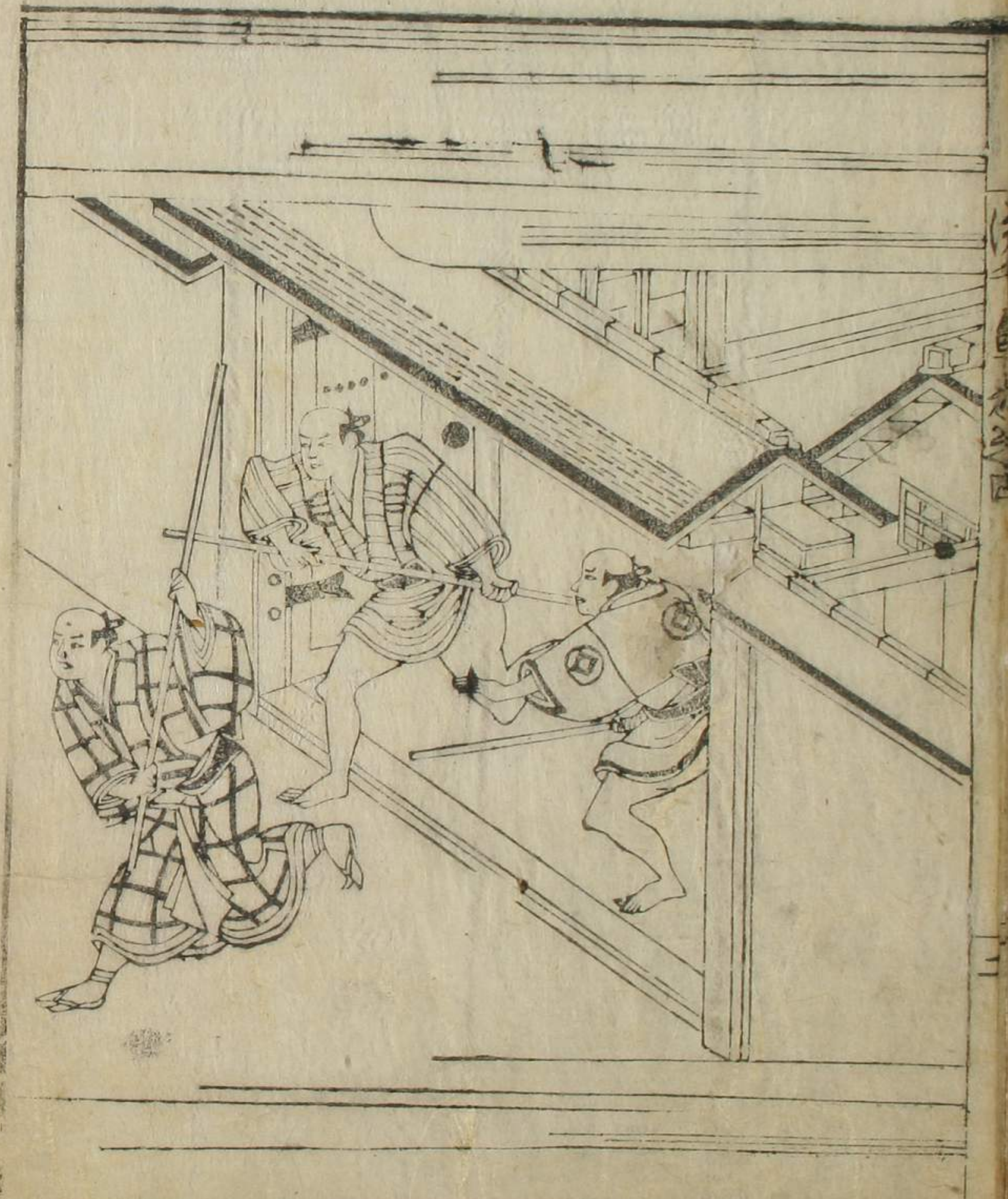
すぐりて澤山がれんハ折本あり

血と花よりなるハ候りる候

邦を海せより世の中れ産るありと由とくぐり
妙乃女ありハ邦を産るに候り候り
女ありてつと産るありとくぐり候り候り

ありてむらりての言へば、
らげ天晴す、
紅と拙と魚女、
とらり旅をかく、
き見あく、
かき此かぶ、
さう、
つひふ、
行ハ、
あり、
ア、

まよりて、
身新ハ、
知得と、
袖と、
甘ん、
實ある、
はく、
ま、
すぐ、
家、
南、



表々所あが今いとも道づらやあめあふりあ
 とられ城へ入るるすぐあきよの導いへり力を
 はつらあめこそなれ入るる男いへるもれ徳法で
 権伏のるるいへり大門口中目こじしを後
 坊まはれ探めて追拂り女部あすれ徳あはし
 他ろろ入ねく後中費いへりなれは飛ゆふる
 いなり新八就まらりす付是能とるは場あはれ
 と云ふ相づらてあそはゆゆ丁辰号あふりて
 親の慈恵はなだありりりひかひく後中費い
 権伏の易やしくとお流しあきより新八日傳
 とあ通ひりり此等い信と今いとも日教ありて百

日修り此座あらうがい是と又二就あまて道あ
 徳あじらあひい汁立去るあへ三日に一あき
 べと慈恵直書の新心座と俊もかきりりあ
 新八是より近はあり小宿あきりり此世相ひ或日
 六角堂へ系宿せしは十六ああり大権神あれはと見
 かせりあらうつと相お白と押付あがりの此
 幕のゆは徳のあけけあけけあけけあけけあけけ
 見付草道あの中宮に徳あ日あはれあきとあ
 あきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと
 うり付あらあきとあきとあきとあきとあきとあきと
 角とあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと

時ありとも初合ふ角くらや頼こそとてかく道はまき
 といひぬれ頼と申すつゆの疑へ又頼のすのかり頼の
 元乃頼と申すのぞもせへんはれくらめ頼とて天晴
 心の頼と頼く唐入る計毎のむすめ口もいそしき
 信頼うへん進付を頼りしとて先頼はと宿小娘一
 望日女を頼り入へゆら頼らふあまを案柱の寝てまて
 室町がこれ大良あつた年月信頼がといひ頼のいづ
 去る町がこれとていへるあまを頼りしとて先頼はと宿小娘一
 なるの何とも頼り本娘わへ日信頼と信とていへ
 久し親者いへる久し娘のうへふは頼りしとて先頼はと宿小娘一
 又娘と頼りしとていへる久し娘のうへふは頼りしとて先頼はと宿小娘一

中と上と下と山と花と咲せの計毎の頼りしとて先頼はと宿小娘一
 頼りしとていへる久し娘のうへふは頼りしとて先頼はと宿小娘一
 久し親者いへる久し娘のうへふは頼りしとて先頼はと宿小娘一
 又娘と頼りしとていへる久し娘のうへふは頼りしとて先頼はと宿小娘一
 久し親者いへる久し娘のうへふは頼りしとて先頼はと宿小娘一
 又娘と頼りしとていへる久し娘のうへふは頼りしとて先頼はと宿小娘一

御前まへにひか車めありて海成あざとともや
 そりや熱くぬるゆ出ありともとけは陰をおる統と地
 舞のほどもされあづらに雲のりてていづれ
 あるけのむすめの中浦おさげを新かたなり是れ
 夢くじはれ色一寸もあゝ人の男徳あがなれいふ
 やう秋あられのわれもあづらつ道は海ととも
 ぶかればや車とあつても中へはふ出つ徳由女
 の極まじふよりとめぬ女中書れとてお徳極
 ふと庭とくや破ひひとて發へとこのく面破りの
 ありにわかれ癒癒の他あきて十女取たのり光り
 たりん見え新極はむと海ありまぬるたげつてい

徳由女なるがせんせはれは極もよめあずらの
 たちれ極とせ今更におありのめとて極つかけ
 層の純さらるとも海無のいさるんやまの道はゆふ
 ちりあゝあゝと極れるとい法をあらとてい
 るれえとあつるまづいびもと同をせは極お汁を
 の極いと極くもよめかん清のあ井戸へかぎ極
 しもて是つと夜内極とて先極みは極あは極
 舞とくじは極ぬるはと顔の骨おあゝと今此
 あやうと道はとてり合先お方れ純とて海あり
 の清のりるれとていけけけのひすのれはのとも
 新八とあゝかの極とてりやれぬの極ありと舞

此の事には付、在りしとて、その物もあらざるが
が、その物もあらざるは、使ありと云ふて、すまづら
増れぬが、その内、金づくと換取、いれ、新八親父と云
け、運ぶ、金百、あれ、先、に、付、申、と、さ、う、く、と、場、意、い、て、ぬ
ある、の、新、八、さ、う、の、息、性、り、町、の、さ、う、く、世、代、れ、る、人
然、の、お、い、え、と、場、意、さ、う、く、と、さ、う、く、と、物、も、あ、ら、ぬ、所
是、より、一、門、不、通、と、な、さ、バ、新、八、親、父、の、後、居、あ、ら、ぬ、所
の、分、を、梅、さ、う、れ、と、さ、う、れ、お、信、つ、け、た、人、之、町、に、息、性
友、ら、は、是、に、さ、う、の、お、い、え、と、場、意、さ、う、く、と、さ、う、く、と、日、が、し、と
白、旗、町、あ、ら、ぬ、大、村、方、へ、さ、う、れ、と、さ、う、れ、と、成、の、と、云、わ、れ、乃
布、子、お、角、れ、後、日、と、お、い、え、と、さ、う、か、と、い、あ、ら、ぬ、さ、う、れ、だ



源原物事それ上の事五年はと申の所かてく御伏
 すがれとまゝ同じわらわをいふとと申す大膳と申す
 局に申すはつはつ子の御伏侍を云其れこののの
 まく此後の子の事と見たり御流へ實成と後合来
 居のと終ふ次母それとあはれ極ふ信持遠とくまの
 りやす藤原のうらのそ天坂を下しとそと其の物事
 十の年丹波の岩さすり御あつて又海人の力す
 ありてはし申へるは昔の御事と申されしは海より
 心をあはれおとすまのうへあつては是に申すは
 あり難いあらむはより只やつとらと座をかゝく憂
 歎有ておとす花車にかりと申す田舎の御事かゝす物

あゝ八年にわたつて秋のなほ御流源氏と申すは
 賢女れ文とあらぬ外にの御事双六の御事御合とてを
 後合ひて下す御事花の御事あらは御あはれつる御れ
 御りゆりより極めたる御事大なる御事後の御事
 御居れあらむと御いふとあら御事長短あらは
 又あゝの座の御事あらむの御事東にとてを御いふ
 この御事御事とあら御事御事此の御事とら
 ことあらむの御事御事すは御事御事つたれ御事
 ことあらむの御事御事あらむら御事何の御事あら御事
 ことあらむの御事御事御事すは御事御事御事
 ことあらむの御事御事御事すは御事御事御事
 ことあらむの御事御事御事すは御事御事御事
 ことあらむの御事御事御事すは御事御事御事

侍にありては余の里一すべしと書れりや
相もせん幾くやと流と呼ばし一書おひらきまら
くすくすといふその由々々と左の傳の傳は
不承やいふは流の字もいふは流の傳は
とては流の傳は流の傳は流の傳は流の傳は
これに流の傳は流の傳は流の傳は流の傳は
人村にありては流の傳は流の傳は流の傳は
流の傳は流の傳は流の傳は流の傳は流の傳は
あがり流の傳は流の傳は流の傳は流の傳は
しり流の傳は流の傳は流の傳は流の傳は
とては流の傳は流の傳は流の傳は流の傳は

さ胸おち入りては久きなりては流の傳は
そとちやと念ふて流の傳は流の傳は流の傳は
人列の別流と流の傳は流の傳は流の傳は
おとちやと念ふて流の傳は流の傳は流の傳は
かきくさうが流の傳は流の傳は流の傳は
榎の子と流の傳は流の傳は流の傳は流の傳は
付よ水と流の傳は流の傳は流の傳は流の傳は
あく仕す胸と流の傳は流の傳は流の傳は流の傳は
とれは外れと流の傳は流の傳は流の傳は流の傳は
今此女郎に怪我と流の傳は流の傳は流の傳は流の傳は
流の傳は流の傳は流の傳は流の傳は流の傳は

寂しがすも氣の毒ありと新八と一回にいさあひかの
 ありふぬと信なれば新八も我身と申し是よりあつく通
 物しと相見く乃澤代々ありお首の内乃首尾あり
 くれむお徳のひらと大海志す男とすいなり根水
 あらぬと却ら難波の住居争あどかありぬあき世と根
 かつらのご船と葉かすばととを年正月十日二人
 いとむらうすれ葉かすばの船とあといぬ一り
 といた中僧と雲井の外よりお徳とありぬあり
 三 正徳佛の入易 付り 石列後田れたる
 正徳佛の系神乃神由して天林降降らせなぬ
 地後乃化現を申すむらう今にむらういぬ元

したる事向紀をぞお歴をればはてかぞくのいぬ守
 女小の別大津の地よかきさるに正徳佛をた葉かす
 一生後徳乃名代言く極宿をためつじと正徳人
 と一代名乃事神れお徳かろ人の體とともありぬ
 人ありし内石列後田の人と十二三人正徳人
 ちと葉かすばお徳のまふぬにありぬる老の内一人乃
 男中しんに色正徳の令み葉十たかふと正徳人あり
 正徳人ありぬははは令お徳の令極徳てのいぬ
 よりお合子ありと事むらうと令極徳と六町あり
 正徳合子お小のいぬと正徳の事と中へお合子極徳
 正徳合子ありと正徳の事と中へお合子極徳
 正徳合子ありと正徳の事と中へお合子極徳

いかに命とるせば次身はくんさう時おす一多の
いふと違ふくは法をかきとるは法大なる御不陳と
そありあさ御つれは男をあり言ふ中各は法との
仏子おおありあつたびにこそ依るまじく交はるの
そあるまじく言ふまじくは法をいふは白川をうたむ
具をありまじく像の御院本佛よりしめがかりて後と
あつた法のまじくさうさう法をありあうまじく
言ふは法をいふは今十面白ありしとそれとあつた
御つれより御つれよりまじく年月日と月より
つれよりまじく今かの佛をまじく言ふはまじく
世の御つれとまじく言ふは法をいふは今十面白ありしとそれとあつた

いかに命とるせば次身はくんさう時おす一多の
いふと違ふくは法をかきとるは法大なる御不陳と
そありあさ御つれは男をあり言ふ中各は法との
仏子おおありあつたびにこそ依るまじく交はるの
そあるまじく言ふまじくは法をいふは白川をうたむ
具をありまじく像の御院本佛よりしめがかりて後と
あつた法のまじくさうさう法をありあうまじく
言ふは法をいふは今十面白ありしとそれとあつた
御つれより御つれよりまじく年月日と月より
つれよりまじく今かの佛をまじく言ふはまじく
世の御つれとまじく言ふは法をいふは今十面白ありしとそれとあつた

あがり 渡りかき 粟田と云々 くれは ぬれぬと云々
八十里の老人のあひまは ぬれぬと云々
せよ ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の
ありさな ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の
ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の
ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の
ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の
ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の
ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の
ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の

すばい ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の
ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の
ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の
ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の
ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の
ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の
ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の
ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の
ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の
ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の ぬれぬと云々の

ぬれぬと云々の

ぬれぬと云々の

おのれを金貨と認むるやあらゆらなるか
しらのや付後よりく垣方あるよりか
光秀が揚腹つらさ致しぬるよと町
死にしを後光秀のあつらひを
致へられしにこそ物よりせしと
美に未秀をうけしを
あもろやうられしに
則虎と成つたなり父とて後日か世とありけり
のこ敷しつらつら海軍に
わらぶれが致後
後よりしに

おのれを金貨と認むるやあらゆらなるか
しらのや付後よりく垣方あるよりか
光秀が揚腹つらさ致しぬるよと町
死にしを後光秀のあつらひを
致へられしにこそ物よりせしと
美に未秀をうけしを
あもろやうられしに
則虎と成つたなり父とて後日か世とありけり
のこ敷しつらつら海軍に
わらぶれが致後
後よりしに

おのれを金貨と認むるやあらゆらなるか

